

きれいなもの　きれいなことば

<1> グルメ

「グルメ」という言葉がもてはやされたのはいつ頃からだろうか。テレビや雑誌などで贅沢な食べ物を食べて喜ぶ方たちの紹介記事に出てきたのが始まりだったように思う。「食通」と称して能書きを言いながら珍しい高価なものを食べて「ウーン！」なんて言っているテレビ番組でこの言葉を聞いた。

いかにも金持ちぶって、食べ物を食い漁っている俄か成金のイメージであまり好きにはなれなかった。高度経済成長の時代、多くの自称中流階級の方々がこれに飛びついた。「私もリッチになったんだ」と言わんばかりに。そして、グルメと言われる群団は、食べ歩き食べ散らし、食べ残す群団と化した。

不快な言葉のひとつで、使いたくない言葉になった。

さらに、これに飽き足りず「B級グルメ」などというおかしなものまでが登場、もう耐えられない。

<2> リゾート

バブルの波が始まった頃、国内の各地に「リゾート」と名が付く「余計なものが一杯付いたホテル」が出来始めた。「欧米型の休暇や娯楽」という触れ込みが数多く目に入って来た。ホテルに長期滞在しても退屈することがないように、様々な娯楽設備を付設しているというような感じだった。

これもグルメ同様に、自称中流階級の高級志向から始まったような気がする。そして・・・

いくつもの「リゾートXXX」が登場したが、20年経って破綻して消えてしまったものも少なくはない。

どことなく馴染めない存在だった。

<3> ライトアップ

建物から花まで何でも光をあてたがる。物には色があり、暗くなったら見えないのも色の内。桜の花は陽光に映える姿が美しいし、夜には闇に浮かぶ美しさがある。それに光をあてたり、しかも色付きの光をあてたりするのは愚の骨頂だ。

手を加えた美しさは、本当の美しさからは遠い存在になっていることを知って欲しい。

豆電球を沢山付けて電気代が勿体ないと思っていたら、「LEDだから安心」とか言っている。

LEDだって1,000個付ければ電気代は馬鹿にはならないだろうし、LEDという半導体を作るのに要する原材料や製造工程で消費される様々な費用や発する公害を考えたら地球にやさしいなどと言ってはいられない。

「ライトアップ好き」と「LED神話」はもうやめて欲しい。

<4> 第二の人生

定年退職する時に、「第二の人生はどのように計画していますか？」とか「第二の人生では何をなさいますか？」と随分質問された。

その人にとって人生はひとつしかない。自分としては、そのひとつしかない人生の第一段階は「生まれて大人になるまでの世界」、第二段階は「仕事を持って糧を得て、社会との関わりを持つ時代」、第三段階は「さらに家庭を持って、社会との関わりを一層強く持つ段階」、そして第四段階として「定年退職して仕事を持って糧を得る段階から抜け出し、新たな社会との関わりを持つ時代」に入るのだと考えていた。

一つの命の始まりから終わりまでの一節と認識していたところへ、「第二の人生」と言って命をもうひとつ生まれ直さなければならないようで、違和感がある言葉だった。

<5> 感動しました

テレビ番組の中でタレントが、ニュースの中でインタビューに応える一般市民が、「感動しました」の連発で厭になって来る。「何にどう感動したんだよ？」と問いかけたくなくなることがある。感動もしていないの

に形式的に「感動した」と言っておくだけの薄っぺらな表現力がっかりする。

小学校の頃に、作文の授業で先生がこんなことを言っていたのを思い出した。

「感動したという表現は感動したことを表す表現ではない。何がどうなって、自分ではどう感じたのかを表現すると、感動した状況を言い表すことができる」

「その表現を見聞きした人が、ああこの人はこんな出来事に心を動かされたんだなと感じる」

例えば、映画「二十四の瞳」を見た後で感想を聞く。現代の人間たちは一様に「感動した」と言うだろう。

「激動の時代に教師と言う仕事に従事した女性の苦労や苦悩がスクリーンいっぱいに表示されていた。私は教え子を戦場に送り出すために教師になったのか？と自問するシーンには引き込まれて涙が出た」

と表現することで、うわべだけの感動との違いが出る。これを見たり聞いたりした人が更に心を動かされる、そんな表現をして欲しいなと思うこの頃である。

<6> 絆 (きずな)

この言葉の語源から考えて見ると、ひらがなで書く時は「きづな」とするのが正しいような気がするが、国語辞典には「きずな」と載っているし、パソコンの日本語変換ソフトは「きずな」と入れないと漢字に変換してくれない。

神戸で大地震が発生した頃からだろうか、「絆」という言葉がやたらに使われるようになった。そして東北の大震災と原発被害、竜巻や台風などの天災。あらゆる場面で「絆」という言葉が使われ、言葉の意味とは無関係に「言葉の響き」だけが走りまくった。ニュースなどでの報道を来ていると、時々「ほんとかよ？」と思うようなこともある。

<7> スイーツ

ケーキ、パフェ、サンデーなどの類を「スイーツ」と称してタレントがはしゃぎまくるテレビ番組が目立つ。そして近頃は、甘いものはみなこう呼ぶらしく、グルメと同様に耳障りな言葉になってきた。

食べ物にはそれぞれの名前があってわかりやすくなっているのに、何でひとまとめににして、しかも英語で言わなきゃならないんだろう？

最近は数少なくなってきたが、街にあんみつや大福を食べさせてくれる「甘味処」と書いたお店があった。

「甘いもの」「あまいもん」では何故いけないのかな？ と不思議に思う。

ファミリーレストラン（この言葉もあまり好きではないが）で何人かの人とコーヒーを飲んで雑談することになった。三時過ぎで何か食べたいタイミングでもあったので、コーヒーの他にチョコレートケーキのようなものを頼んだ。すると、こんな会話になった。

「小林さんってスイーツ好きなんですか？」

「いや別に・・・、ケーキは好きですけど」

「じゃ、スイーツ好きなんですね」

「・・・・・・・・・・」

書き連ねたらきりがないので、この辺でおしまいにする。

以上